

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 25 日現在

機関番号：32689
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2015
課題番号：25770162
研究課題名(和文) The Language of Japanese Spam Mails

研究課題名(英文) The Language of Japanese Spam Mails

研究代表者

Backhaus Peter (Backhaus, Peter)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授

研究者番号：40582888

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は日本語のスパムメールを分析する。特に男性パートナーとの肉体的関係を求めている女性のふりをした、いわゆる「逆援助交際」の招待メールに注目する。分析の中心となる343通のスパムメールのコーパスによる調査に加え、二種類の分析方法を用いた。一つ目は55人の大学生を対象とした質問紙による調査であり、二つ目、以前スパムメールの作成に関わっていた「スパム関係者」との半構成的インタビューである。上記の3つの調査結果を総合することにより、スパムメールのテキストの特徴について、送信側(作成者)と受信側(読者)を含めて、新たな知見を得ることができる。

研究成果の概要(英文)：This paper analyzes the language of Japanese spam mails. Special focus is on one specific type of spam: make-believe dating invitations by women looking for physical relationships with male partners, a phenomenon also known as "gyaku-enjokosai". The textual analysis of a corpus of 343 spam messages is complemented by two additional research tools: a questionnaire survey with 55 Japanese undergraduate students and a series of semi-structured interviews with a former writer of spam messages. Taken together the three parts of the project provide some new insights into the textual characteristics of spam, including both the producing end of these texts and their (potential) readers.

研究分野：社会言語学

キーワード：日本語 ジェンダー スパム CMC(コンピュータを介したコミュニケーション)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本語の迷惑メール“スパム”の中で用いられる言葉について調査を行うことを目的に立ち上げられた。“スパム”とはインターネット上で送られてくる、受信側にとって求められていないメールのことを指し、広告や悪意のあるソフトウェアを拡散する目的で大量に送信される。近年はEメールのあるところには必ずこのスパムありという状況でありながら、言語学の分野でスパムの調査が注目を集めたのはほんの最近のことである。

本研究で調査対象としたスパムの種類は、男女の出会いを斡旋する仲介業者の連絡と、男性の相手を探している女性が個人的に送ったものと思わせる連絡との2タイプである。多くの場合、女性募集者が交際の男性相手に多額の金銭の授与を申し出す。言うまでもなく、このようなメールに記載されている交際相手候補と称される人物は実在せず、スパムメールの送り主によって次々に生み出される虚像である。

絶え間なく送り出されるこの種のスパムは、この研究が開始された当初にもすでに日本の社会言語学者の興味を少なからず引いていた。しかしながら、スパムを扱う言語学の調査はこれまでのところ、非常に数が少なく、不足している状況である。この実状から本研究は、遍在するものでありながらその実態が殆ど解明されていないスパムという現象に着目し、その理解の寄る辺となる文献を築くために立ち上げられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は一般的なスパムの本質とそのメッセージの内容を本物であると信じさせる言語学的メカニズムについての理解を深めることである。これに基づき、以下のリサーチクエスチョンを立てた：

Q1: スパムというジャンル、特に交際を誘うスパムメールの言語的特徴とは何か

この種のスパムの性質を調査する観点により、Q1 から次のサブクエスチョンが派生した。

Q2: 一般に禁句(タブー)とされる言葉・表現はメールの中でどのように扱われているか

Q3: メールを受け取る男性側が返信するように差し向けるための誘い文句にはどのようなストラテジーが用いられているか

Q4: この種のメールにおいて女性的セクシュアリティはどのように表現されているか

3. 研究の方法

本研究の準備段階として、筆者(研究代表者)は2009年3月からこれまでの間に自身のメールアドレスに送信されてきた、男女の出会いの斡旋を謳う3000件以上のスパムメールをデータとして収集した。研究初年度においては、これらのメール434件を一つのコーパスとして編纂した。

次に、Chasen というソフトウェア¹を使用し、データは全てトークナイズ(形態素の間にスペースを加え、テキストを電子データとしてコーパス内で検索可能にすること)され、用語索引用のソフトウェア antconc²を用いて分析された。このテキストは量的、質的両方の視点から分析を行っている。メールの長さ、頻繁に使用されている語彙、語の配置や連結、送り主の名前やメールのタイトルについては量的研究の側面から分析を行った。特定のメールにおいて用いられる特有のストラテジーについては質的研究の側面から分析を行った。

分析の中心となるコーパスによる調査に加え、テキスト分析による結果のトライアングュレーション(三種類の分析方法を用いることにより、分析結果の信頼性を高めること)を行うため、さらに二種類の分析方法を用いた。一つ目の追加調査方法は質問紙による調査である。この調査では55人の大学生に筆者が選択した4種類のスパムメールが提示され、メールの内容について評価やコメントがなされた。二つ目の追加調査方法は大まかに構成された質問項目を用意する形式での、半構成的インタビューを実施した。このインタビューは以前スパムメールの作成を行ったことがあり、その直接の経験を共有することを申し出た人物に対してメールまたは一部対面形式で行われた。

4. 研究成果

コーパスによるテキスト分析

異なる種類のスパムについて、数的処理による分析の結果、217のメッセージ(コーパスの50%)が男女の出会いを斡旋する会社からの誘い文句の形態をとっており、残りの199のメッセージ(コーパスの45.9%)は個人的に女性から送ってきているという体裁をとっているものであった。他のメッセージについては明確に分類することが不可能であった。分析によると、どちらのメッセージの基本構造も類似するものであり、次のような構造となっていた。

¹ <http://sourceforge.jp/projects/chasen-le-gacy/releases/27532>

² http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/antconc_index.html

挨拶

(自己)紹介

要件

外部のサイトへのリンク

一方、件名・差出人の名前・頻繁に用いられるキーワードなどに相違点がみられた。

用いられている語彙についてより詳細に分析してみると、性的に禁句とされる言葉の意味を表現するために様々なストラテジーが用いられていることが判明した。最も一般的であったのは以下のものである。

- ・ 婉曲表現
(例:「アソコ」)
- ・ 外来語・ローマ字
(例:「H」,「セフレ」)
- ・ 美化語
(「お〜」)
- ・ 文字隠し
(例:「S X」)

興味深い例は、求められている関係の種類について、「関係」ということばの前に置かれる表現が、性的関係を暗示させるが明示的な表現ではない「割り切った」という形容表現が最も多く用いられている。表1に示される通り、より明示的な表現も用いられていた(例:「セフレ関係」)が、多くは間接的な表現を用いていた(例:「癒し合う関係」、「素敵な関係」)。

表1:「関係」の前置修飾語として最も頻繁に用いられた形容表現

割り切った/割り切りの	関係	27
体/身体/カラだ(だけ)の	関係	14
大人(の)	関係	6
セフレ	関係	5
逆援助	関係	4
性的	関係	4
不倫	関係	3
癒し合う	関係	3
楽しい/素敵な	関係	3

各メッセージを詳細に分析してみると、(偽)女性のパーソナリティを表す特徴的な語彙表現が見られた。最も頻繁なのは、女性の話し言葉の文末によく用いられる典型的な表現である「わ」「かしら」「ねえ」や、顔文字や絵文字(が最多)であった。また、メッセージの内容とまったくそぐわない、よ

りフォーマルな文(例:「私とSEXしていただけのなら」)も時折みられた。これらの直接的表現と間接的表現の混在は前項で述べられた禁句表現の複雑な使用法を想起させるものである。

誘い文句のストラテジーについては、分析の結果、読み手の返信を誘引するための様々な要素が特定された。最初の「関門」は読み手にメールを開かせることである。この関門を突破するには件名と差出人の記述方法が最も重要である。件名については疑問文(例:「今夜にでも会えませんか」)や感嘆符のついた文(例:「人妻の直アド!無料で即ゲット!」)がより多く用いられていた。さらに返信することによるリスクが生じないことを確信させるためのキーワードを使った特徴的な表現(例:「安全」、「安心」、「無料」)が含まれており、最後に、大半のスパムメールに記載されているリンクを読み手にクリックさせるために指示詞(ココ)や矢印()が用いられており、この二つが頻繁に組み合わせて用いられていた。

質問紙法(アンケート)による調査

対象のスパムメールが実際の読者によってどのように理解されるかを探るために、2013年12月に追加調査を行った。コーパスから4つのメッセージを選定し、それに関して大学学部生55人(女性23名・男性32名)の意見を求めた。調査方法として、アンケートで各メールを次の3点について5段階のリッカート尺度を用いて測定した。

- 内容の真実性
- 言葉の自然さ
- 返信してしまう可能性

対象となった4通のメッセージを学生が評価した結果は、図1にまとめてある。全体として、3つの評価カテゴリーの中で「言葉の自然さ」が各メッセージにおいて最も高い平均値を示していることで、スパムとして読み取れる原因は、言葉よりも内容にあることが窺える。

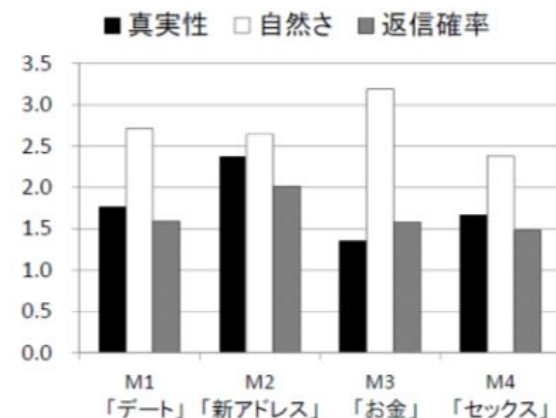


図1: 4メッセージに対する評価(平均値)

回答者を男女別で見ると、やや予想外な傾向が出ている。言葉の自然さに関しては、殆ど違いはないものの、内容の真実性と返信してしまう可能性の評価点は、女性の方が男性よりも高くなっている。このことから、この種のスパムメールの読み方は受け手側の性別によって異なるということが窺え、非常に興味深い結果となった。逆援スパムという仕掛けに男性が騙されてしまうリスクを高く見積もっていたのは、騙しの対象である男性ではなく、女性の方であった。

アンケートには各メールに対して自由にコメントする欄も設けてあり、学部生からのコメントによって、メールの読み手がスパムの内容をどのように理解するかということについてさらに見識を得ることができた。学生による回答の中で最も頻繁に述べられていたのは、メールに用いられているある種の語彙、文構造、スタイルによってスパムメールであることが容易に判断できるということであった(コメントの例:「文面[が]やたら丁寧でいかにもスパムメールという感じがする」)。このことから、スパムには「スパム役割語」とでも称されるような、このジャンル特有の表現方法が存在すると考えられる。

スパム作成経験者へのインタビュー

この被験者とは共通の知人を介して接触をはかることができたが、スパムメール作成の内部事情について打ち明けたいとインタビューに応じてくれるまでには、大量のメールのやりとりが必要であった。インタビューにより判明したスパムの最大の特徴は、この手のスパムメールの殆どは機械的に予め用意されたテキストの塊を集合的に組み合わせで作成されるということである。インタビューに応じた被験者によると、このテキストの塊についてはどのように生成されているかわからないが、完全に機械によって作成されている可能性は低いのではないかとということであった。機械による生成がどの程度であるにせよ、これらのテキストが頻繁に再生利用または再構築されることはテキストのジャンルとしてのスパムメールの発展の可能性の考察に重要な要素であるといえよう。この結果は、アンケート調査による学生からの回答内容やテキスト分析による研究者自身のスパムメールへの印象とも一致する。

このスパムメール作成という「仕事」における被験者の主な役割は、スパムメールの内容を本物と思い込み返信してきた(男性)相手へメールを送ることである。被験者によると、この段階では機械によって返信することは不可能となり、人間が実際に返信をする必要性が生まれてくる。このやりとりにあたって被験者が最も重要と考えていたのは、騙されている男性が思い描く「実在する」女性像を演出するために「適切な言葉」の選択をしなければならないということである。この回

答もまた、この種のスパムメールに女性的な表現(語彙、文法、表記)が使用されているという分析結果を裏付けるものである。

全体として、以上の本研究の3つの調査結果を総合することにより、スパムメールのテキストの特徴について、送信側(作成者)と受信側(読者)を含めて、新たな知見を得ることができた。

5. 主な発表論文等 (研究代表者)

[雑誌論文](計1件)

- ・ 2013. You've got sp@m: A textual analysis of Japanese dating invitation mails. *Contemporary Japan* 25(1). 1-16. (査読付き)

[学会発表](計3件)

- ・ You've got sp@m: A corpus-linguistic analysis of Japanese dating invitation mails. DIJ Study Group, 2012年5月18日、ドイツ日本研究所
- ・ “今夜にでも会えませんか” 逆援スパムメールにおける言葉と性
第42回メディアとことば研究会 2013年12月7日、早稲田大学
<http://www.hituzi.co.jp/kenkyukai/happyo-nejume/peterbackhaus2014Dec7.pdf>
- ・ “もし私と会ってデートをしてくれるなら・・・” 「逆援」スパムメールをどのように読み取るか
第37回社会言語科学学会研究大会 2016年3月20日、日本大学

[その他]

- ・ 新聞記事: Indecent proposals: the language of Japanese dating spam. *Japan Times*, 2012年9月24日
- ・ <http://www.japantimes.co.jp/life/2012/09/24/language/indecnt-proposals-the-language-of-japanese-dating-spam/#.V05ESfmLSUk>

6. 研究組織

(1)研究代表者

バックハウス・ペート (BACKHAUS, Peter)
早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授
研究者番号: 40582888